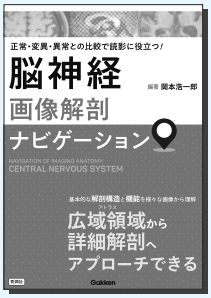
正常・変異・異常との比較で読影に役立つ！

脳神経画像解剖ナビゲーション



編・著：岡本浩一郎
（新潟大学脳研究所
トランスレーショナル研究分野）

発行：Gakken

2022年11月刊行
B5判・392ページ
定価：10,340円（10%税込）

◆とうとう出会えたこの1冊……さあ神経という旅に出かけよう！

われわれが研修医の頃，神経放射線関連の書籍は数冊程度で，もちろんインターネット検索もできず，何度も図書館に足を運んでは図書カードで検索をして，本棚から目的の本をみつけ出し，時には真っ暗な地下で古い文献を探し出した．それが，ここ十数年の間に優れた書籍が出版され，また手軽にインターネット検索もでき，珍しい疾患も容易に検索できるようになった．確かに，疾患ベースの検索は簡便になったが，今でも日常臨床や学会発表などの準備で時間が費やされるのが，脳神経領域の解剖についてである．病変の局在が正しいのか？ ネット検索しても，みつからなかったり，記載ごとに説明している内容が異なったり，みつかっても納得いく説明がなかったりする．また，単に活字の説明だけでイラストがなく，頭に入ってこない．これって私だけ？

そんな時にとうとう出会えたこの1冊．編著の岡本浩一郎先生は，多くの論文・総説を執筆され，画像の特徴から特定の診断に絞り込む今日の神経放射線診断の手法の礎を築いてこられた．その岡本先生が，またまた困って迷っている私の姿を見透かしていたかのように本書を発刊された．この本のすべては，“ナビゲーション”という言葉に集約される．まずは，神経系の解剖に迷っている私を適切にナビゲートしてくれる．また各章をエキスパートの神経放射線科医が執筆され，本当なら執筆者ごとの思考（嗜好？）によって1冊としてのまとまりが薄れそうだが，岡本先生が執筆者を上手にナビゲートし，すべての章が心地良いリズムでつながっている．また，解剖だけだとどうしても調べる書物になりがちだが，そこに正常変異や疾患を含めることによって局在解剖への興味を高め，読んでいるうちに，次はどこの局在に行くの？ それが司っている機能は何？ というように私の好奇心をくすぐりながら脳神経の世界をナビゲートする．

今日もモニターに向かい合って読影し始めるが，『脳神経画像診断ナビゲーション』は脳神経という旅には欠かせない1冊となっている．さーて，今日もお洒落なオレンジ色のこの本を片手に，脳神経という旅に出かけよう！

自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児画像診断部
松木　充

◆読影をしていて，道に迷ったらどうしたらよいのだろうか？

もちろん地図（解剖図譜）を開けばよい．しかし，実のところ地図には読み方がある（全然関係ありませんが，『地図が読めない〜』なんていう書籍もありましたね）．そして，その読み方というものが，とても大事だったりする．そもそも，地図が読める人は地図を前にして迷ったりしない（たぶん）．地図には情報が詰まっている．では，地図があればそれで事足りるのだろうか．既に述べたが，その読み方こそがキモである．どのように効率良く地図から必要な知識を得るのか，それには工夫（テクニック）が必要である．読み解き方にもガイドがあると吸収量（情報の引き出し）や効率が格段に違う．また，ちょっとしたお店情報のような豆知識も載っているガイドブックがあればなお良い．一問一答式の問いと答えの直結ではなく複合的な足がかりがあれば，総合的に理解ができて二度目以降は引き出しやすいし，忘れにくくなるからである．

本書で具体的にいえば，①臨床的に重要な正常構造はどこにあり，どのようにみえるのか，②それは本当に異常なのか（生理的変化や正常変異はどのようにみえるのか）という基本的な地図の読み方を，マクロな視点からミクロな視点へ絞り込んでいくナビゲーション方式で誘導してもらえるだけではない（これだけでも非常にありがたい）．③本来あるべき姿が，どのように変化したら，どんな機能・臨床的意義が生まれるのか，④異常を来しうる病態としてどんなものが考えられるのかまで，一歩二歩先に進む読解の仕方が惜しげもなく開陳されている．さらには，⑤コラム的な興味深い最新のお得情報（お買い物ガイド）も散りばめられており，無機的な単なる暗記ではない多層的な理解が深まる．このように，地図が読める（と思っている）人にも楽しめる工夫がなされている．

脳神経画像の読影に困ったらどうしたらよいのでしょうか．そう，今，一条の光が差し込みました．読影のお伴としてこれほど心強い道案内はありません．本書にすがりましょう．

自治医科大学医学部放射線医学講座
森　墾